

2009年1月7日

駐日イスラエル大使館

ニシム・ベンシトリット 殿

日本高等学校教職員組合

中央執行委員長 北野 庄次

パレスチナ・ガザ地区への攻撃・侵攻の中止を求める要請書

イスラエル政府・軍が2008年12月、パレスチナ自治区ガザへの空爆をはじめ、年明けの1月3日から地上軍を侵攻させたことに対して、日本高等学校教職員組合はきびしく非難し、即時中止・撤退を求めるものである。幼い子どもたちを含め、罪のない多くの市民が尊いいのちをうばわれている。かかる軍事攻撃・侵攻はいかなる理由があろうと正当化できない。

日本は20世紀前半まで、時の政府の暴走によって戦争の歴史を繰り返してきた。太平洋戦争においては、2000万人のアジア人と300万人の日本国民のいのちがうばわれた。この戦争の痛恨の反省に立って、日本国民は憲法を制定し、二度と戦争をしない、戦力不保持、交戦権の否認を世界に宣誓した。この憲法の問題に立って、貴政府にガザ侵攻の即時中止・撤退をつよく求める。

戦争の世紀といわれる20世紀を経て、いま、世界諸国民は武力によらず、話し合いによって紛争を解決する「平和な世界秩序の実現」をめざして歩みだしている。こうした流れに逆行するという意味からも、貴政府・軍のガザ侵攻は許すことができない。

「パレスチナ問題」を根本的に解決するために、侵攻の中止・地上軍の撤退を早期におこない、対話による解決をめざすよう重ねて求めるものである。

以 上